



# けやき



No.12

甲府市立南中学校  
令和4年2月25日  
文責 渡邊 豪

## 思いを新たに

2月4日は立春でした。立春は二十四節気の一つで、暦の上では春が始まる日とされ、節分の翌日です。二十四節気は紀元前の中国で生まれた、太陽の動きに基づいた暦です。1年を4つの季節に分け、さらにそれぞれの季節を6つに分割して二十四に分けたものです。四季の始まりがそれぞれ、立春、立夏、立秋、立冬で、この4つは「四立（しりゅう）」と呼ばれ、暦の上での季節の境目となります。立春は春が始まる日とは言っても、実際には1年のうちで最も寒さが厳しい頃です。しかし、1月下旬になるとみるみる日が長くなり、立春の頃は春が近づいていることを実感できる時でもあります。

早いもので今年度も、あと1月ほどになりました。3年生は、自分の進路実現に向けて全力で取り組んでいます。1, 2年生は、南中を支える最上級生と中堅学年の2年生になるときが目前に迫っています。南中生一人ひとりが「思いを新たに」次なるステージへと進む時を迎えます。大切な時を迎える皆さんに、次の言葉を贈ります。

【今】 坂村 真民

**「大切なのは、かつてでもなく、これからでもない。一呼吸、一呼吸の今である。」**

「かつて」とは、「今まで」のこと。大切なのは、今までがどうだったか、これからどうなるかではなく、呼吸をしている「今」、この時、この場で自分が何をしているかが大切だと言っています。「今」、この時をいい加減にせず、逃げず、夢や目標に向かって自分から真剣に努力することの大切さを示しています。私達の一生は、「今」、この瞬間の繰り返しであり、積み重ねです。だから「今」を大切にす経験を積み上げていくと、その先に、夢や希望が叶い、自己実現を果たした未来のあなたが待っているはずです。



3年生は南中学校で過ごした3年間という時を宝物に、新たな場で「今」を大切にしながら自分をさらに成長させていって欲しいと思います。1, 2年生は、これから南中で過ごす「今」を大切に、仲間や先生方とともに、さらに素晴らしい南中を作り上げ、その中で自分を高めていけるよう努力して欲しいと思います。令和3年度はもうじき幕を閉じようとしています。しかし、同時に令和4年度の幕開けです。仲間との別れや一つ一つの物事の終わりを大切にしながら、新たな場での目標を定め、それぞれの場で「今」を大切にしながら、生き生きと活動してくれることを期待しています。

## 令和4年度 新入生保護者説明会実施

令和4年度入学生の保護者の方々を対象にした「新入生保護者説明会」を1月31日に開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの急速な感染拡大により、当日は小学校ごとに受付時間をずらし、物品販売のみを行うことにしました。コロナの感染拡大が起こる可能性があったので、当日配布予定の資料は、事前に小学校経由で配布させていただきました。その後、説明を無くすことを決定

し、小学校経由で通知にてお知らせしました。コロナ対応も2年目になりますが、いつも先を考えながら、原案のみならず変更案を必ず準備して、行事や諸会議を開催しています。コロナ禍ですが、安心して新入生が中学校への入学の日を迎えてくれるよう、細心の注意を払いながら準備を進めているところです。以下は、新入生保護者説明会が予定どおり行われたときに、お話ししようとしていた内容の抜粋です。

世界中が新型コロナウイルス感染症に翻弄されています。小学校でも授業や行事など、様々な制限をせざるを得なかったと思いますが、中学校も同様でした。また、ご家庭や小学校でも感染防止対策に、万全を期してきたことと思いますが、引き続き中学校でもよろしく願います。

さて、4月からお子さんは、本校の生徒になります。保護者の皆様には中学校入学にあたり、分からないことや不安なことがあるかもしれません。本日の説明会で、様々な説明がこのあと各担当からございますが、不明な点はお気軽に問い合わせいただき、お子さんの入学に備えていただきたいと思います。

予定では、4月6日に入学式を迎えます。中学生になると3年間で体と心が大きく成長します。身長は40cm近く伸びる生徒もいますし、心も大人へと成長していく過程、いわゆる思春期といわれる時期を本格的に迎え、家庭ではこれまでとは違ったお子さんの様子が見られることもあると思います。中学に入学する頃から、学校や家庭で意識したいことは、「目は離さないが、手は少しずつ離していく」または「心の距離は近いけれど、体の距離は少しずつ離していく」ということが大切になってきます。これは、子どもたちを、家庭、学校、地域社会で大人にしていこう、という意識をもって自立に導いていくためです。

これまでいつも手の中に、または、手の届くところにいたお子さんが、自分から離れていく感じがして、さみしいと感じることもあるかと思いますが、やがて、お子さんが自立に向けて、日々たくましくなっていくのを見守ることが、喜びに変わると思います。そうやって親離れの時期を迎えることが、子どものこれからの人生において、また、保護者の皆さんにとっても、本当に大切な財産となるはずで



中学校での学習、特に生徒会活動や行事、部活動などでは、生徒の自立を常に意識した取り組みが行われます。そういった経験を通して、自立に向けた足がかりを作るのが、中学校時代ではないかと考えています。

やがて3年生になると、多くの生徒にとって初めての経験となる、自分自身の進路について考え、決定し、入試などの試験を受け、自分の進む道を切り開いていくこととなります。中学校卒業と共に義務教育が終了し、そこから先の進む方向は、自分で選択していきます。自分で選択するが故の苦しさや厳しさがあります。そこをきちんと乗り越えていける力を、その時まで身に着けることが大切になります。その時のために、諸活動を通して自立の足がかりを作っていきます。

わずか3年間ですが、とても密度の高い3年間です。この3年間をどう過ごすか、また、どう過ごさせるかで、その後の進路が変わることもあります。家庭と学校が連絡・連携を密にしながら、お子さんを大人へと成長させていきましょう。そして、困難なことにも立ち向かい、乗り越えていける力とたくましさをも身に付けてもらいたいと思います。ぜひ、3年間よろしく願います。4月に元気に入学してくることを、職員、在校生一同、心よりお待ちしております。

3年生の保護者の皆様にとっては、懐かしく感じる方もいれば、今まさに真っ只中、と感じる方もいることでしょう。1、2年生の保護者の皆様は、入学以来の1年間または2年間を振り返ってみて欲しいと思います。これは、あくまでもお子さんの「自立」という側面を中心にしていきますが、育ちの過程は多岐にわたりますので、当然これ以外の視点も大切になります。上にも書きましたが、ご家庭と学校で緊密に連携をとりながら、学校が一人ひとりのお子さんにとって、より良い育ちの場となるように努めて参りたいと思います。